



健康福祉センターさわやか ☎76-4006

# 早期発見が大切!

## 乳がん・子宮がん



近年では、国民の2人に1人が『がん』になり、3人に1人が『がん』で亡くなっており、日本人の死亡原因の第1位となっています。最近では芸能人の方でがんになった、がんで亡くなった、というニュースも多く聞きます。このように、がんは誰にでもなる可能性のある身近な病気です。今回は、女性のための乳がん・子宮がんについてのお話

### 乳がん

乳がんは乳腺にできる悪性

腫瘍です。女性に一番多いがんで、近年では12人に1人になるといわれています。年齢が高まるとともに増えるがんとは異なり、40〜50歳代でピークを迎え、比較的若い世代で多くなっています。出産経験がない、または初産年齢が30歳以上、初潮が11歳以下、閉経年齢が遅い、家族に乳がんになった人がいる、肥満の方などは注意が必要です。

乳がんの症状で代表的なものは「しこり」です。自分の胸の状態を見て触って知っておくことで、些細な変化に気

## 乳がん・子宮がん検診

### ◆日程・会場

- ①平成28年1月28日(木)  
健康福祉センターさわやか
- ②平成28年1月29日(金)  
洞爺ふれ愛センター

- 事前に予約が必要です。詳しくは回覧チラシをご覧ください。
- 問合せ・申込みは、健康福祉センターさわやか(☎76-4006)へ。

☆個別検診でも受けることができます。各医療機関にお問い合わせください。

- ・伊達赤十字病院……乳がん・子宮がん検診
- ・石田内科胃腸科……子宮がん検診

### 子宮がん

子宮にできる悪性腫瘍で、

「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2種類があります。近年では、20〜30代の若い世代で子宮頸がんが増えています。平成26年には、約2,900人の方が頸がんで亡くなつて



います。

頸がんのほぼ100%は、ヒトパピローマウイルス(HPV)感染によるものです。HPVは性行為によって感染するありふれたものですが、感染しても、免疫の働きなどで自然に治る人がほとんどです。しかし、ウイルスが排除できずに感染が長期化(持続感染)してしまうと、細胞ががん化することがあります。

頸がん初期の自覚症状はほとんどありませんが、静かに進行して、気づいた時には子宮摘出や命を落とすこともあります。しかし、早期発見することができれば、頸がんは比較的予後の良いがんです。**☆乳がん・子宮がん検診を受けましょう!**

乳がんも、子宮頸がんも、早期には自覚症状はほとんどありませんが、検診を受けることで、少しでも早期の段階で発見することができ、治癒率も高くなります。

未来の自分のために、乳がんは40歳、子宮がんは20歳になったら、2年に1回検診を受診しましょう!